

わがまち瀬谷

第62号 (2018年7月1日発行)

編集・発行 せや・ガイドの会 後援 瀬谷区役所

瀬谷の魅どころ

路傍の石仏 (5)・筆子塚

江戸時代の庶民の教育機関として普及したのが寺子屋である。お坊さんがお寺で子供達に読み書きを教え、その生徒のことを寺子と呼んだことから寺子屋の名が始まったとも言われている。

師匠には武士、浪人、書家、医者、僧侶、町人など様々な身分の者になった。江戸中期の頃には800名もいたと云われる。

筆子塚とは、その教育機関であった寺子屋や家塾で、読書算などを教わった教え子が、師匠が亡くなった後にその遺徳を偲んで、自分たちで費用を出し合って建てた墓、塚、または供養塔である。師匠塚・筆子塚などと云った。

近世に入ると、この寺子の教育は寺院を離れて街中で行われるようになったが、寺子の言葉はそのまま残され、子供を教える施設を寺子屋と呼ぶようになった。手習い(習字)を主とし、「手習師匠」とも呼ばれた。幕末維新时期には都市はもとより全国の農山村にまで広く普及し、明治初期の小学校の母体となった。

瀬谷では4基確認される。

妙光寺には慶応3年(1867)の日英上人筆子塚がある、これは台座の正面に「筆子中」と刻まれている。善昌寺には順龍・正嶺和尚の筆子塚が残っており、



寺子屋図



妙光寺筆子塚



子屋の規模を知ることができる。

西福寺千年椎

西福寺に明和7年(1770)宝篋印塔を造立した義海和尚も寺子屋を開いている。

宗川寺にある山名義実の墓も筆子塚といえる。山名氏は文久3年(1863)二ツ橋村に住み、明治初期に二ツ橋学舎を設立し近隣子弟の教育に尽くしたと云われる。台座にはその教えを受けた筆子でしょうか、多くの名前が刻まれている。また、阿久和にある森本謙司翁賀寿碑(42号掲載)なども筆子塚と考えられる。森本先生の遺徳を偲び、教えを受けた方々が建立したとある。同じく瀬谷小学校校庭の片隅に、大正4年(1919)建立された中丸先生の碑も筆子塚と云えるでしょう。中丸先生は明治25年(1892)尋常高等瀬谷小学校初代校長に就任し42年まで地域の子弟の教育にあたり、没後子弟によりこの碑が建立されたとある。

有名な筆子塚として宮城県刈田郡矢附村の真田幸清筆子塚があげられる。安政2年(1855)、幸清は領地の真田氏在郷屋敷において寺子屋『真田塾』を開いた。文久2年(1862)の時点で門弟50名が在籍していたと云う。筆子塚は真田塾の門弟たちが建てた。

この碑の正面には『左衛門佐幸村十世』と刻まれている。260余年の長きに渡り秘匿してきた真田幸村の子孫である事を、明治の世となってようやく公表することができたと、この碑は伝えていると云われる。

参考 瀬谷の歴史、他

井嶋記



山名義実墓



中丸先生之碑



幸清筆子塚